佐竹靖彦著

梁山泊

水滸伝・108人の豪傑たち

中公新書

1058

中公新書 1058

佐竹靖彦著

梁山泊

水滸伝・108人の豪傑たち

中央公論社刊

佐竹靖彦（さたけ・やすひこ）

1939年（昭和14年），大阪府に生まれる．
1962年（昭和37年），京都大学文学部史学科卒業．
現在，東京都立大学人文学部教授．文学博士．
宋元時代史専攻．
著書『唐宋変革の地域的研究』（同朋舎）
訳書『元の大都』（中公新書）

梁山泊
中公新書 *1058*
©1992年
検印廃止

1992年1月15日印刷
1992年1月25日発行

著者　佐竹靖彦
発行者　嶋中鵬二

本文印刷　三晃印刷
カバー印刷　大熊整美堂
製本　小泉製本

発行所　中央公論社
〒104 東京都中央区京橋2-8-7
振替東京2-34

Printed in Japan
ISBN4-12-101058-2

はじめに

水滸伝は、中国の国民文学である。旧中国において、およそ字を読むことができ、そして水滸伝に接するだけの経済的、文化的余裕をもちながら水滸伝を読まなかったものはいなかったといってよい。そしておそらく現代中国においてもこの状況には大きな変化はないものと思われる。

わが国においても水滸伝はかつて多くの愛読者をもっていたが、現代の日本においては水滸伝の読者は以前に比べると少なくなったようである。それはおそらくわれわれが、水滸伝の生まれてきた母胎となった世界を、そしてつい百年ほど前まで、そこでわれわれの祖先が生きてきた世界を、すでに忘れつつあるからであろう。水滸伝には、しばしば満月の光によって、あるいは燭台の光によってあたりが白昼のように明るかったという描写がでてくる。「白日のような月の光」のもとで、あるいは「天に満ちる星の光」のもとで、水滸伝の豪傑たちは、高慢未熟な棒使いと武術試合をしてこれをたたきのめしたり、梁山泊（りょうざんぱく）に攻め寄せた官軍の水軍部隊を殲滅したりするのである。月の光のもとや星の光のなかで、正規の戦闘が行なわれるということは、月の光や星

の光によって照らされている夜は本当の夜ではないということである。それは、漆黒の夜の闇の深さを逆にわれわれに教えてくれる。

同様に、「真昼のような」と形容される燭台の明りによって作られる不夜の宴の豪華さもまた、昼は窓さえないオフィスの人工照明のもとでくらし、夜は下界の光を照りかえしてぼおーっと一面に明るい中天の乱反射が、月や星の姿をかくしてしまう現代に生きるわれわれにとって、なかなか十分には理解できないことである。さらにまた、水滸伝の中には、魔法によって一日に四百キロを走る驚異の韋駄天、神行太保戴宗(いだてんおやぶたいそう)があらわれるが、現代のわれわれはこどもから大人まで、これを上回るスピードで、ひっきりなしに移動しているのである。

水滸伝が書かれたころ、広大な中国の各地をお互いに結びつける交通手段は、徒歩か馬や驢馬、あるいは帆船であった。情報伝達もまた、ごく限られた情報を相当の速力で伝達する狼煙(のろし)をのぞいては、せいぜいのところ早馬や飛脚をこれに加えることができるだけであり、この面でのギャップは交通手段以上に大きい。

軍事の面においても、事柄はまったく同じである。兵器が自動的に戦争しているような錯覚にとらえられがちな現代とは異なって、梁山泊に集まった豪傑たちは、自らに与えられた肉体的あるいは精神的能力以外のなにものにも頼らずに、歩いたり、走ったり、泳いだりしながら天下を揺り動かしていたのである。なかでは馬軍の豪傑たちが、やや自己以外の力に頼るわけであるが、

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

そのせいもあってか、かれらは豪傑たちのなかではもっとも精彩を欠いている。

われわれの水滸伝の世界への接近にとってのいまひとつの困難は、水滸伝の豪傑たちのもつ特異な性格である。たとえば、宋江（そうこう）の一の子分で、梁山泊きっての暴れものの李逵（りき）は、いとも簡単に人殺しをする。かれが興奮しだすと敵味方の区別なくまさかりをふるって切り殺すので、かれが突進すると敵も味方もともに逃げまどうのである。さらに、理解しがたいことに、戦闘に関係のない民衆といえども、かれの目の前にあらわれる人間はすべてかれのまさかりの餌食となってしまう。

このような豪傑像は、わが国の時代劇にはあらわれてこない。かれは、わが国の豪傑とは異質な存在なのである。

もちろん、梁山泊の豪傑のこのような異質さはなにもいまになって始まったことではなく、かれらは本来そのような存在だったのである。しかし、過去の日本においては、中国はあらゆる意味で大先進国であったので、いかにかれらが異質な豪傑であろうと、あえてその異質な受け入れがたさを云々する読者はいなかった。そして虚心坦懐にわが国の文化的伝統とは異質な中国の、すなわち外国の文学の世界をそのままに受け入れることによって、わが祖先たちは、これまで知ることのできなかった、より広い世界を自らのものとしたのである。中国の古典文学たる漢文を、自国の文化のほんらいの重要な構成要素と見誤るほどの日本人の感性はこのようにしてできあが

ったといえよう。

明治以来、わが国には中国に代わって西欧世界の文学の多くの主人公たちが入りこんできた。そのうちには、わが国の風土や文化には容易に馴染みがたい異質なひとびとが少なからずいたはずであるが、その受け入れがたさを云々する読者は、ほとんどいなかったように見える。ここにおいても、事柄の本質的な面は同じであった。しかし、かつて中国文化を普遍的なものとして受け入れていた日本人たちが、今度は、西欧文化を普遍的なものとして受け入れはじめたとき、水滸伝の世界はわれわれから遠ざかりはじめたのである。

このわれわれから遠ざかりつつある世界、しかもなお深くわが祖先たちの心をつかみ、そして今も昔も中国人の心をしっかりとつかんでいるその国民文学の世界を、ふたたびわれわれの前に、過去と同じ魅力をもってひきもどすことはほとんど不可能に見える。

本書の試みは、むしろこの水滸伝の世界から離れつつあることによって、われわれが獲得した一種の客観性を利用して、水滸伝がその魅力をフルに発揮していたころには見えなかったその文学としてのダイナミズムを明らかにすることを狙っている。水滸伝が中国の国民文学であるゆえんは、それが中国人の生の真実に触れるところがあるからである。水滸伝の世界は、何段かのフィクシオンをへて、中国人の歴史的な生の世界と結びついている。本書のねらいは、この世界から離れつつあるわれわれが、離れつつある立場を武器として、このフィクシオンとレアリテの相

関のダイナミズムを探り、逆説的に今日のわれわれが水滸伝の魅力へ接近する道筋を探ろうとする点におかれている。

目　次

はじめに

第一章　水滸伝の舞台……3

梁山泊は黄河が作った水溜まり　太行山には松林が残っていた　水滸伝の四つの舞台

第二章　水滸伝の構成……13

天罡星三十六人と地煞星七十二人　水滸伝のスタンダードは百回本　水滸伝の第一部分は義士銘々伝　宋江のイニシァティブの確立　遼国遠征　水滸伝の結びは方臘討伐

第三章　水滸伝のライン・アップとその変化……33

天罡星三十六英雄　『大宋宣和遺事』における楊志、林冲、公孫勝　『大宋宣和遺事』は明初にできあがった　軍人グループの最初の根拠地は太行山　無頼の

刺青グループの根拠地は「梁山泊太行山」　胥吏・衙役グループの根拠地は「梁山泊」　番外の大物たち

第四章　水滸戯と二人の羅貫中……62

元初の水滸戯　元末明初の水滸戯　ほんらいの水滸戯には遼国討伐説話はなかった　初代羅貫中と二代目羅貫中

第五章　小役人宋江から大豪傑宋江へ……77

宋江は得体の知れない男である　喜劇的悲劇の主人公　黒矮(くろちび)三郎宋江　宋江の綽名、呼保義の意味　宋江の弟、鉄扇子宋清　大豪傑への道

第六章　魯智深と李逵……96

義士銘々伝の豪傑たちは一匹狼　黒旋風李逵は舞台のヒーロー　講談の大豪傑魯智深　殺人と殺陣　李逵アクション・チームの成立　李逵アクション・チームの三つの形　方臘討伐譚と李逵アクション・チームの構想＝加上説

第七章　公孫勝と大遼討伐 …… 126
傷つけられた漢人の民族的自負心　対契丹戦の英雄楊業と楊家将故事　种家の武将たちの物語　魔法使い公孫勝はほんらいは方臘討伐戦のヒーロー　方臘討伐故事と明代の書会
第八章　美女と刺青――一丈青扈三娘のこと …… 140
綽名は重要である　一丈青は細長いもの　青龍一丈青　躍動する無頼の心　水滸伝の一丈青は上品である　英雄一丈青　あばずれ一丈青
第九章　九天玄女と宿元景 …… 166
梁山泊の守り神は晁蓋から九天玄女に変わった　宿元景は星宿の化身　道教的ファンタジーと水滸伝　水滸伝の地理知識の種本は『元史』である
あとがき　182

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

梁山泊

りょうざんぱく

第一章　水滸伝の舞台

梁山泊は黄河が作った水溜まり

見渡すかぎりの華北大平原を作ったのは黄河である。現在の青海省のチベット人の居住地域に源を発する黄河は、東流したあと内蒙古のオルドス地帯を包みこむようにまず北流し、つづいて東流したのち南流して潼関（どうかん）の高地につきあたって東に向きをかえる。山峡のあいだをほぼ一本道で鄭（てい）州にいたるまで約三百キロのあいだ、途中に有名な三門峡（さんもんきょう）（山西省と河南省の境にある。河流のなかに二つの島があり、河流を三分するので、この名がつけられた。黄河最大の難所である）の激流を経ながら、黄河はほぼ一キロに一メートルの割合で高度を下げる。

黄河は、この鄭州を扇の要としてその河道を変えながら華北の大平原に黄土を配給した。華北

大平原は黄河によって作られたのである。中国の歴史が始まった殷周のころ、黄河は華北平野の北の端、現在の天津のあたりで海に流れこんでいた。多量の黄土をふくむ黄河は急速に天井川となり、二年に一度といわれる小氾濫を繰り返した後、数百年に一度の大氾濫によって大きく河道を変えて、そのたびに河口を南下させた。およそ唐末から南宋の末まで、黄河の河口はほぼ現在の河口のあたりであった。

水滸伝の豪傑たちがつどう梁山泊は、もともとこの河道をとおっていた時期の黄河が氾濫した時にできた大きな水溜まりである。水溜まりといっても一般に南北三百華里、東西百華里と言われていたから、二華里を一キロとすると南北百五十キロ、東西五十キロとなり、わが国の琵琶湖など足もとにもよれない大湖水である。黄河の氾濫時にできた水溜まりであるから、水深は浅い。泊は濼とも書き、もともと浅い湖水を意味するという。水溜まりができるぐらいであるから、洪水が去った後も梁山泊に流れこむ水路も流れだす水路もある。大きくくくれば済水と呼ばれるこの水路を通じて梁山泊は直接渤海湾とつながっているし、少し北に上れば黄河下流も近い。また、大運河と平行する淮河の支流を通じて淮南、さらに揚子江ともつながっている。こうして梁山泊は立派な交通の要衝であるが、その規模の大きさのため、歴代王朝の管理が行き届かず、つねに盗賊たちの住みかとなっていた。

盗賊たちの扱うもっとも重要な商品は塩である。海岸線の短い内陸国家として、中国の歴代の

諸王朝はしばしば人民の生活必需品たる塩の専売を行なった。解州の塩池の岩塩や、塩水のわきでる井戸の水を煮つめてつくった四川の井塩など、限られた内陸部の塩の産地を除いては、内陸部への塩の供給は沿岸の海塩にたよらざるをえない。解州の塩池や、四川の井塩などのきわめて限られた塩の生産地を国家の管理のもとに置くことははなはだ容易なことであるし、短い海岸線を押さえるのもそれほど困難ではない。さらにいえば、長江（揚子江）より南の海岸線の大部分は浅く広い浜を持たないので製塩には不向きであり、実際には河北から淮南にかけての海岸線を押さえれば目的の大半は達成できる。こうして、塩の国家管理ができると塩の価格は生産コストをはなれて、いくらでも自在に値上げすることができる。王朝がこの点に注目して行なった塩の管理統制と専売は、王朝財政を大いに潤したが、それは、同時に塩の密売という重大な社会問題を産んだ。たとえば、王朝の定めた価格の半分の闇の塩が、王朝の専売額の半分売れたとすると、それを扱う密売組織は、王朝の専売の収入のほぼ四分の一の収入を得ることになる。唐から宋にかけて民間商業が発展して、商人たちが全国的規模での商品流通を担うようになると、かれらが国家の許可を得て塩を運ぶことが多くなった。このような状況のもとで、正規の商人が、あるいはそうでない商人が塩の密売に手を染めるのは自然の成り行きである。商人たちは、平時にあっても塩の密売と全く無関係とは言い切れなかったし、平時には普通の商人であっても、生活が苦しくなると闇商人として王朝の専売品たる塩の売買に手をだしはじめる。そこから得られる巨大

な利益は、恒常的な闇商人組織を生み出し、かれらはなかば盗賊的な商人となる。もちろん王朝の側は、これを厳重に取り締まるので、かれらは自己防衛のために秘密結社を作ってこれに対抗する。かれらは、恒常的な社会不安の源泉となった。

ただし、かれらは一方では正真正銘のアウトローであるが、他方では人民に生活必需品を安く売るという点で、民衆の側に立つ側面をもっているので麻薬をあつかうマフィアなどとはよほど性質を異にするのである。水滸伝の物語のなかでは、個々の豪傑たちが塩の密売の片棒を担いだという話は出てきても、宋江（そうこう）を首領とする集団的な塩の密売という話は出てこない。そして、北宋の末の歴史上の人物たる宋江についても、かれが塩の密売にかかわったという積極的な証拠は見いだせない。しかし、水滸伝の物語は、歴史上の宋江そのものよりは、かれをふくめてはなはだ多くの反社会的な盗賊あるいは英雄たちを生み出した、より大きな歴史を反映しているのであり、梁山泊を中心とする黄河下流および大運河、あるいは大運河と平行する淮河の支流の周辺は、唐末以来かれらの活躍の主要な舞台であった。梁山泊は宋末元初に黄河の河口がさらに南下して淮河と合流してその河口で海にそそぐようになると急速に陸地化するが、それまでは一貫してこのようなアウトローたちの住みかとなっていたのである。

中国の古典的演劇は、唱（うた）と科（しぐさ）と白（せりふ）からなる一種の歌劇であり、元代に典型的に完成した。これを元曲（げんきょく）と呼ぶが、この元曲のなかで宋江に率いられる梁山泊の豪傑たちの物語を扱うものを、ふ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com